

平成27年度第2回 府中市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年10月16日(金)
開会午前10時、閉会午前11時16分

2 場 所 府中市教育センター 会議室

3 出席者

(構成員) 戸成市長 平谷教育長 田中教育委員 井上教育委員
骨田教育委員 古川教育委員

(事務局) 船尾副市長 石川総務部長 大和人事秘書課長
栗根教育部長 河本総務課長 竹内学校教育課長 谷口生涯学習課長
横山総務課主幹 門田学校教育課主幹 山田総務課庶務係長

4 傍聴者 1名

5 協議内容

【開会 市長あいさつ】

平成27年度第2回府中市総合教育会議を開会いたします。

5月の会議に続き2回目の開催になります。9月29日に予定しておりました会議を延期することとなり、みなさんにはご迷惑おかけしました。

今回は、一つめに教育大綱の案について、二つめに次年度の教育予算について協議したいと思いますので、活発なご意見を、よろしくお願いします。

(1) 府中市教育大綱の策定について

【市長】前回の会議で、大綱の柱はご提案させていただきました。

大綱案を作成しておりますので、お手元の資料をご覧ください。(資料1参照)

まず、サブタイトルでございます。

～未来へはばたくグローバルな人材の育成

生涯にわたって学びあえるまち府中～

を提案させていただきますが、いかがでしょうか。ご意見をお聞かせください。

グローバルについて教育長説明をお願いします。

【平谷教育長】グローバルについて、かなりポピュラーな言葉になってきておりますが、簡単に説明させていただきます。グローバルとローカルを組み合わせた造語です。府中市がめざしているグローバル教育の充実と、郷土・ローカルを愛する心の育成によって、府中の子どもたちが世界の人と対等に渡り合える人材になって欲しい、あるいは地元府中を愛する人材に育て欲しい、この両方を併せもつ人材の育成を願っています。

【市長】サブタイトルについて修正はありませんか。

【教育委員】異議なし

【市長】では、サブタイトルはこれで決定したいと思います。

次に、私から、教育大綱に掲載する内容の重点的な項目について、説明させていただきます。(重点教育政策)

これからの3年間、教育現場では、グローバル教育、なかでも英語教育と、道徳教育をはじめとする豊かな心の育成に力を入れ、変化の激しいこれからの社会を生き抜く

力の礎を築いていきたいと考えております。

また、府中市の歴史を学び、伝統と文化を継承することで、府中で育ってよかったと思える郷土への愛着、さらには郷土の発展につながる心の育成を願っております。さらには、いつでも、どこでも自ら学ぶ環境の整備を進め、コミュニティ・スクールの推進などにより、地域で活躍できる人材を育成し、学びあふれるまち府中の実現に向け、平成25年度から10年間の府中市教育推進計画である府中学びプランを基にして制定いたしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、教育大綱の具体的な内容について、教育委員会事務局から現状とあわせて、説明をお願いします

【栗根教育部長】資料1-1の内容を説明（別紙参照）

I 小中一貫教育を推進し、たくましく生き抜く力の養成について

【井上委員】確かな学力の向上の中で、学校訪問を通じて気付いたことを申し上げる。学年によって少しばらつきはあるが、授業に対する取組が、確かに良くなってきている。先生の元気な姿によって、子どもは育っていくので、それが学力向上につながっていき、豊かな心の育成にも結びつくと思う。先生も大変だろうが、（指導）力の育成に、ベテランの先生が引っ張っていくようがんばって欲しい。

【田中委員】ここに挙げていることは、府中学びプランに沿っているので、賛成する。豊かな心の育成に全てつながると思う。「知徳体」の「知」と「体」の間に「徳」がある。徳育「道徳教育」を重点にすすめて欲しい。グローバル教育の中で、主に英語教育だが、コミュニケーション能力の向上だけでなく、英語教育を通して、普段話している国語・日本語の大切さ、すばらしさを認識し、他の国のすばらしさを感じながら、自分の国の良さを再認識して欲しい。キャリア教育・学力の向上はすべて人との関わりのツールとして、自分を高めていき、社会力の向上にすべてつながって、人格形成に向かうようお願いをさせていただく。

【平谷教育長】小中一貫教育をすすめる中で、若い先生の指導力向上は課題と認識しているが、ベテランと若い先生のかかわりの中、良い成果が出ていると思っている。小中一貫を始めて12年過ぎていく中で、小中一貫という形だけしていれば良いのではなく、子どもたちに力をつけるという原点に戻って、すすめていく必要性を感じている。4学園の中でも、一体型と分離型で形態が違うので、一律でなくそれぞれに応じた支援を考えながら、確かな学力の向上を図っていく。豊かな心の育成の中で、道徳教育は当然のことで、学校の中だけでなく、社会との様々な交流場面でも心の育成が培われる。先日、府中明郷中教頭が保護者を対象にした「道徳」の授業をされた。地域・保護者にも広げていく必要がある。

II 伝統と文化の継承

【骨田委員】芸術文化活動の推進は、絵画・書については、充実してきているが、表現の形には、音楽・演劇もあると思う。メディアが発達して気軽に見れるが、生で観るとは迫力が違うので、そういう場も積極的に作って欲しい。

【田中委員】全てに通じるが、人材育成で伝統と文化の継承、まさにグローバルな人材、継承者の育成に重点置いて欲しい。

【平谷教育長】 次代を担う人材の育成は大切。文化連盟の方が、画材を寄付して、部活を応援してもらっている。今年初めて教育委員会主催で小学生対象の絵画と書道の「子ども市美展」を開催し、学びフェスタで表彰もする。興味関心のある子が活躍できる場の設定が必要。上下では、地域の歴史を知って地域外の人に知ってもらう活動「バスツアー」を企画・開催し、郷土を愛する気持ちを持った人材育成につなげている。

【市長】 国府を活かした取組みについてはどうでしょうか。

【田中委員】 国の指定を受けて、駅からも近い地域なので、公園と文化ゾーンを一体とした所ができればよいと思う。

【井上委員】 資料館が離れているので、近くに持ってくればいいのか。

【市長】 検討しなければならない事である。

【平谷教育長】 府中の大きな「宝」なので、教育委員会だけでなく、市全体で考えていく必要がある。「国府」を子ども達にも、しっかり知らせていく必要がある。今は国の指定に向けて全力投球している。

【市長】 子ども達に、誇りを持たせることが大切である。

III 学びあえる地域社会の形成

【骨田委員】 コミュニティ・スクールは伝統文化の継承にもつながる。学校の統廃合により、学区が広範囲になり、地元根付いていた伝統芸能が、継承しづらくなったが、コミュニティ・スクールの中で、このことも継承していきたい。地域と家庭だけならやりやすいが、そこに学校がどうかかわるかは難しい面がある。課題は多いが、やりがいのあることなのでやっていきたい。

スポーツは記録・勝負だが、まずは小さい子、体幹がしっかりしていない時期の、学校でじっと座っておけないなど発育がゆっくりめの子の支援が必要、そして、身体を動かす楽しさを知る活動を支援する施設を作って欲しい。

【市長】 知徳体の中で、体力が最近落ちてきているように聞いている。その辺りはどうなのか。

【平谷教育長】 体力テストの数値をみると、以前より下がってきていたので、最近力は入れている。学校の体育の授業は大切だが、日ごろの運動経験や遊びをもっと考えていく必要がある。現代社会のコンピューターなどの発達で外に出て遊ばないこともある。学校だけでは解決できないので、地域・家庭と連携しなければならない、大きな問題である。

【田中委員】 学びあえる地域社会の形成 家庭の親学、公民館行事、スポーツ活動で最終的には人がつながって向上していく。参加する人が固定化しているのが、どの地域でも課題としてあると思う。大きな課題であるので、生涯学習という意味で重点化していただきたい。

【平谷教育長】 コミュニティ・スクールはこれからどうすすめていくか考えていく中で、最終的には地域の活性化にどうつなげていくかが課題である。学校・地域・保護者みんなにとって良いものだということにならなければ、どこかに負担がかかると進みにくく

なる。それぞれのメリットを活かして、踏み込んですすめていく必要がある。長い目で見たとき、今の子どもが、保護者になり、地域の人になっていく、将来の人材を育てているという感覚ですすめていくことが必要である。

【古川委員】根本になるのは、言語・ことばである。低学年のときから学校教育の中できちんと充実してもらい、その力をつけた上で色々なものが成り立つと思う。色々取組んでいるが、コミュニティ・スクールで地域で学んだ後、府中市の現状をみたとき、高校卒業後進路を考えたとき、地元で学べるような（高等教育）施設を検討して欲しい。

【市長】家庭教育力の啓発が出ているが、なかなか難しい時代になっている。そこについて、もう少し意見をいただけないか。

【田中委員】そこは、重点でやって欲しいところである。学校外からの行事、イベントで補っていくべきところなので、是非お願いしたい。

IV 安全・安心な教育環境づくり

【骨田委員】発達障害のある子の中には、照明器具のちらつきが気になり、授業に集中できない傾向がある。LEDなら緩和できるので、取替えを希望する。

【栗根教育部長】教室について、LED化はできてないので、検討する。

【田中委員】学校施設のトイレがきれいに使ってはいるが、老朽化が気になる。最も、重点をおいて欲しいのは、食育である。信じられないような事件が毎日のように起きる中で、食育の影響が大きいと専門家が言っている。医療費の削減も期待でき、食の大切さを再認識し、取組んで欲しい。個人的な意見だが週5日の地産地消の米給食が身体にも精神的にも良いようなので、希望する。検討をお願いしたい。

【井上委員】食事の内容、米の大切さ、メニューによつての精神的・体力的な面から、エネルギーだけでなく、発育段階の子どもにかかわりが大きいらしい。

【平谷教育長】どれも大切だが、食育については、給食センター栄養士や栄養教諭を中心に積極的にすすめてもらっている。それにより、保護者・子どもたちが関心を高めていると思う。市民試食会の感想でも、「今の子どもたちは、こんなにおいしく栄養のあるものを食べている」とあった。市民の方々へもしっかりと伝えていく必要がある。

【市長】ありがとうございます この資料1-1は本日の協議内容も加えて、大綱の補足資料として、ホームページ上で公表する予定です。

教育大綱は、本日お配りしている様式A3版 1ページで作成します。補足資料と併せて、次回11月の第3回会議の際に最終確認いたしますので、よろしく申し上げます。

(2) 平成28年度教育予算概要について

【市長】本日の2つめの議題に入ります。

来年度の教育関連の予算にかかるものでございます。

教育委員会事務局の各課から、それぞれ重要だと思われる事業について、提案を受けております。

本日資料2でお配りしている項目です 各課から具体的に説明します

【総務課長】

1. 文化財

①備後国府の国史跡指定に伴う事業

約1,300年前に政治の中心であった「備後国府跡」の国史跡指定に向け、現在、報告書の作成と地権者への指定同意の取り組みを行っている。

早急に国史跡指定を受け、貴重な歴史遺産である備後国府跡の今後の保存・活用の具体化を図っていかなければならない。

平成28年度は、

- ・政庁跡の確認に向け、継続調査を行い、また、今後の保存活用・整備基本・整備実施計画の策定に向け、保存活用計画策定に向けた策定委員会の設置準備を行う。

- ・史跡指定となれば、記念イベントとして記念講演会や歴史講座の実施、史跡指定看板または横断幕の設置などを考えている。

②文化財保護と「歴史・文化拠点ゾーン」の実現

- ・歴史民族資料館の中心市街地への移築に向け、28年度は移築場所や方法等を検討する。

2. 施設

①学校施設内部改修

25年度で校舎の耐震化を終えたが、災害時等に備えた窓ガラス等の耐震化や緑化等の環境に配慮したエコスクール化の推進、さらに、建設からかなりの年数を経過した学校施設の内部改修が必要である。

これらの状況を踏まえ、「府中学びプラン（府中市教育推進計画）」に示す安全安心な教育環境づくりの重点事項として学校改修計画を策定し、26年度から安全安心な学校づくりを行っている。

特に、老朽化した3小学校（旭・栗生・南）の早急な内部改修が必要であり、今年度は、旭小学校の天井扇設置、照明の増設等、職員室の天井張替え等を行ったが、引き続き28年度は、トイレ、校舎屋根防水、天井張替え、体育館屋根の改修等を行いたい。

【学校教育課長】

1 グローバル教育の充実

(1) グローバル・キャンプの継続

今年8月に、本市初めてとなるグローバル・キャンプを1泊2日でキャンプ in ふちゅうで実施した。参加児童生徒は、市内全小中学校から50名。異国の文化と言語を伝えるボランティアスタッフは、ALT、外国人留学生、海外留学体験高校生、市内中学校英語教員など総勢21名の参加をえている。

このキャンプの特徴は、異文化交流・理解を目的とする、問題発見・問題解決プログラムとする、必然的に外国語を使用する場面をつくるの3点です。

外国語教育の充実はもちろん、スケールの大きい不測の事態に直面しても、自分を失わず問題解決を図るほどのグローバル・センス、また、外国に行って英語で喧嘩をして勝ってくるくらいの度胸を、府中の子供たちには、つかんでほしいと願っている。

(2) グローバルゲート・ウィズ・ALT

市内全校にALTを配置し、府中市の学校には必ずネイティブ・スピーカーがいて、イングリッシュ・オンリーの空間に浸ることができるスペースを創造していく。

児童生徒が自ら志して英会話に挑戦し、異文化間交流を日常的に深め、ALTとの接点を通して、いつでも世界と渡り合える気概を育てていく。また、グローバルゲー

トでは、地域住民との協働により英会話空間を創造していきたいと考えている。

(3) グローバル・キャリア留学体験事業

府中市内の企業が海外拠点をおく国際都市を訪問し、海外現地の企業訪問・留学・ホームステイ体験を通して「世界へ羽ばたくグローバル人材の育成」を目指し、実施する。

グローバル・キャンプの実績により小学校5年生からグローバル人材の門戸は開かれており、本事業では、検討中ではあるが、中学校1年生又はキャリアスタートウイーク体験中の中学校2年生などより効果的な学年の希望者を対象にして、本市企業が海外拠点をおく国際都市に短期留学させ、現地の学校教育を知り、異文化交流に浸るとともに、地元企業家の世界規模の努力と思考について包括的なキャリア教育として、実地に体験を行うものである。

【生涯学習課長】

1. 市民プール（現 B&G プール）の建替えについて

築約40年経過し、老朽化したB&G海洋センターについて、建て替えを含めた改修整備計画を進めている。新しいプールの期待する効果を検討しながら、建設地の確定を行い、その進捗状況を見ながら、平成28年度予算には設計費を計上していきたい。

2. 公民館改修について

公民館については、全体的に老朽化が進んでいるため、計画的に改修を行っていく。特に、クルトピア明郷及び岩谷については、府中市の特徴を活かした大規模な木造建物なので、特に適切な維持管理が必要となっている。平成25年度に外壁の改修を行った。その改修の際に、以後3年おきに外壁の塗装を行うことが適当であると位置づけているため、平成28年度は計画していきたい。また、今年度耐震診断を実施している、出口・久佐・国府公民館のうち出口・久佐公民館については、その結果によっては耐震改修を行うための設計費を計上していきたい。更に、西公民館については、1階ホールの内装壁材など一部が建築基準法上指摘を受けているため、改修を行っていきたい。

府中市全体の公共施設の維持管理計画と調整を取りながら、公民館は避難所に指定されているので、適切な取組を行っていきたい。

3. 家庭教育の充実のためのプログラムについて

家庭教育は全ての教育の出発点であり、適切な家庭教育を受けることが、子どもたちにとって重要であると認識している。しかしながら、地域のつながりが希薄になっていることや、核家族化等により、子育てや家庭教育がやりにくくなっているのが現状である。学校や個々の保護者だけの問題でなく、地域や社会全体で家庭教育を支援していく体制が必要である。そのために親が親としての役割や責任を自覚し、自主的に子育ての技術や知識を学ぶ「親の力を学びあう学習プログラム」通称「親プロ」について、家庭教育支援の有効なツールとして考え、府中市においても、数年前から取り組んでいる。平成27年度は、前年度に続き、市内での、ファシリテーター（司会・進行役）養成講座の開催や、新たに「親プロ」体験講座の開催などに取り組んでいる。保育所の保護者や小学校のPTAなど、今年度の利用者が増えている。

来年度は、引き続き養成講座と体験講座を開催すると同時に、新たにファシリテーターの実力を向上させるためのステップアップ講座や府中市のオリジナルプログラムの作成等、学校教育課と連携しながら取り組んでいきたい。

【市長】何かご意見はありますか。

【田中委員】生涯学習課の家庭教育充実のためのプログラムの中で、昨年度からのファ

シリテーターが各学校での実践の場を確保して欲しい、もう一点、「就学前に、保護者としての心構え、こどもにはこれだけのことは身に付けるように」というパンフレットを配布している県があるので、府中市でも検討して欲しい。

【市長】各課から予算概要について聞きましたが、平成28年度の予算編成の具体につきましては、今後、府中市全体の予算を財政当局と詰めていきます。ご承知のとおり府中市の財政は厳しい状況でございますが、教育行政につきましても、主要施策については、可能な範囲で実現していきたいと考えております。ハード面だけでなく、ソフト面の充実も必要でございます。最小限の費用で、最大限の効果を生むよう職員の工夫も期待するところでございます。

【市長】それでは、他に何か協議したい内容は、ございますでしょうか。

無いようですので、次回第3回の会議は11月下旬に、本日のみなさんからの意見を反映させて、大綱を決定したいと思います。

以上をもちまして平成27年度第2回総合教育会議を終了いたします。